

○中小企業診断士登録までの道のり

中小企業診断士になるまでには、1次試験、2次(筆記・口述)試験、実務補習・実務従事等の3段階のステップがあります。

※当案内は2011年度試験実施例を基に作成しています。試験要項は、例年試験実施年度の4月上旬～5月上旬に発表されます。

第1次試験

◆8月

企業経営やコンサルティングに関する基本的な知識を問う試験

1次試験は、中小企業診断士に必要な知識を有するかどうかを判定することを目的とし、マークシート形式により行なわれます。なお、他の国家資格の合格者などに対しては、申請により試験科目の一部免除が認められています。

■試験実施科目
7科目

■試験問題形式

マークシート形式による多肢選択式
※四択式または五択式

●1次試験概要

受験資格	年齢・性別・学歴等に制限はなし			
試験実施日	8月上旬(2011年度は8月6日(土)、7日(日)(2日間))			
試験科目	試験科目		時間	配点
	1日目	午前	A. 経済学・経済政策	60分 100点
			B. 財務・会計	60分 100点
			C. 企業経営理論	90分 100点
	2日目	午後	D. 経営管理 (オペレーション・マネジメント)	90分 100点
		午前	E. 経営法務	60分 100点
			F. 経営情報システム	60分 100点
午後		G. 中小企業経営・中小企業政策	90分 100点	
実施地区	札幌・仙台・東京・名古屋・大阪・広島・福岡 (2011年度)			
合格発表	9月上旬(2011年度は9月6日(火))			
合格基準	①	総点数による 合格基準	総点数の60%以上であって、かつ1科目でも満点の40%未満でないことを基準とし、試験委員会が相当と認めた得点比率とする。	
	②	科目ごとの 合格基準	科目合格基準は、満点の60%を基準として、試験委員会が相当と認めた得点比率とする。	
合格の有効期間	●1次試験合格(全科目合格)の有効期間は2年間(合格年度とその翌年度まで2次試験を受験できる) ●1次試験合格までの科目合格の有効期間は3年間(翌年度と翌々年度まで合格した科目を免除申請できる) ※3年以内に7科目のすべてに合格することで1次試験合格となります。 ※2年以内に6科目、残りの1科目(実務補習)科目に合格した場合は、試験委員会が相当と認めた得点比率により1次試験合格となります。 ※科目合格は、1次試験合格と同一の効力を持ち、それまでの科目合格による受験免除の権利はなくなります。			
受験料	14,400円(税込)(2011年度)			

1次試験科目ガイドは

26

ページ

合格基準の詳細(具体例)は

32

ページ

第2次試験

合格

◆筆記試験(10月)+口述試験(12月)

企業の問題点や改善点などに関して解答する筆記試験と面接試験

2次試験は、中小企業診断士に必要な応用能力を有するかどうかを判定することを目的とし、中小企業の診断及び助言に関する実務の事例並びに助言に関する能力について、筆記および口述の2段階の方法により行なわれます。

■試験実施科目

《筆記》4科目

《口述》筆記試験出題内容をもとに4～5問出題

■試験問題形式

《筆記》各設問15～200文字程度の記述式

《口述》10分程度の面接

●2次試験概要

筆記試験	受験資格	1次試験合格者 ●1次試験合格(全科目合格)年度とその翌年度に限り有効 ●2000年度以前の1次試験合格者は1度に限り有効			
	試験実施日	10月中旬～下旬(2011年度は10月23日(日))			
	試験科目	試験科目	時間	配点	
		午前	【事例Ⅰ】組織(人事を含む)を中心とした経営の戦略および管理に関する事例	80分	100点
			【事例Ⅱ】マーケティング・流通を中心とした経営の戦略および管理に関する事例	80分	100点
午後		【事例Ⅲ】生産・技術を中心とした経営の戦略および管理に関する事例	80分	100点	
	【事例Ⅳ】財務・会計を中心とした経営の戦略および管理に関する事例	80分	100点		
実施地区	札幌・仙台・東京・名古屋・大阪・広島・福岡(2011年度)				
筆記試験結果発表	12月上旬(2011年度は12月9日(金))				
口述試験	受験資格	当該年度の2次筆記試験合格者 ※口述試験を受ける資格は当該年度のみ有効であり、翌年にも該当することはありません。			
	試験実施日	12月中旬(2011年度は12月18日(日))			
	実施方法	中小企業の診断及び助言に関する能力について、筆記試験の事例などをもとに、個人ごと面接			
	実施時間	約10分間			
	実施地区	札幌・仙台・東京・名古屋・大阪・広島・福岡(2011年度)			
	合格発表	12月下旬～1月上旬(2011年度は2012年1月6日(金))			
合格基準	筆記試験における総点数の60%以上で、かつ1科目でも満点の40%未満がなく、口述試験における評価が60%以上であることを基準とする。				
合格の有効期間	2次試験合格後、3年以内に実務従事・実務補習を受ける必要がある。				
受験料	17,900円(税込)(2011年度)				

2次試験科目ガイドは

28

ページ

実務補習・実務従事

登録

◆2月・3月・7月・8月・9月

コンサルティングの実践

実務補習・実務従事は、中小企業診断士として診断実務能力を有するかを実務を通して判断することを目的とし、第2次試験合格後、3年以内に実務補習を15日以上受けるか、実務に15日以上従事することにより、中小企業診断士としての登録の申請を行なうことができます。

●実務補習・実務従事概要

(1) 実務補習

登録実務補習機関による実務補習

受講資格：中小企業診断士2次試験合格者の中で、3年を経過していない方。

実施期間/実施地区 (2011・2012年度例)	札幌	仙台	東京	名古屋	大阪	広島	福岡
2011年							
6/30(木)～7/11(月) (5日間コース)	○	○	○	○	○	○	○
7/1(金)～7/11(月) (5日間コース)	○	○	○	○	○	○	○
8/19(金)～8/29(月) (5日間コース)	○	○	○	○	○	○	○
9/9(金)～9/20(火) (5日間コース)	○	○	○	○	○	○	○
2012年							
2/2(木)～2/13(月) (5日間コース)	○	○	○	○	○	○	○
2/13(金)～2/13(月) (5日間コース)	○	○	○	○	○	○	○
2/2(木)～3/12(月) (15日間コース)	○	○	○	○	○	○	○
2/13(金)～3/12(月) (15日間コース)	○	○	○	○	○	○	○

※5日間コースを受講される場合は、第2次試験合格後3年以内に3回受講することが必要です。

■実務補習の標準的な流れ(5日間コース例)

実施約1週間前	指導員からメールにて、企業概要の提示や事前準備作業の指示
第1日目～第4日目	グループ別打ち合わせ、企業等の訪問・調査、資料分析、診断報告書の作成など
第5日目	企業等への報告会など(修了証書発行)

※5日間コースは1企業(業)、15日間コースは3企業(業)の実務補習を行います。

① 受講手数料 5日間コース——50,000円(税込)
15日間コース——150,000円(税込)

② 中小企業基盤整備機構、都道府県等中小企業支援センターにおける実務補習

(2) 実務従事

- ① 国・都道府県等、中小企業基盤整備機構または都道府県等中小企業支援センターが行う診断・助言業務
- ② 中小企業基盤整備機構または都道府県等中小企業支援センターが行う窓口相談等の業務
- ③ 中小企業に関する団体が行う中小企業の診断・助言または窓口相談等の業務
- ④ その他の団体または個人が行う診断・助言または窓口相談等の業務
- ⑤ 中小企業の振興に関する国際協力等のための海外における業務

合格者の実務補習体験を
TACホームページで公開中!

TAC 診断士 検索

実務補習ガイドは

29

ページ

受験者数・合格者数・合格率の推移



■他資格等保有による免除対象者(ダブルライセンスに有利)

科目免除	科目免除対象者(2011年度試験実施例)
経済学・経済政策	大学等の経済学の教授・准教授・助教(通算3年以上) 経済学博士 公認会計士試験または司法試験2次試験において経済学を受験して合格した者 不動産鑑定士、不動産鑑定士試験合格者、不動産鑑定士補、司法試験2次試験合格者
財務・会計	公認会計士、公認会計士試験合格者、会計士補、会計士補となる有資格者 税理士、税理士法第3条第1項第1号に規定する者(税理士試験合格者)、税理士法第3条第1項第2号に規定する者(税理士試験合格者)、税理士法第3条第1項第3号に規定する者(税理士または弁護士となる資格を有する者)
経営法務	弁護士、司法試験合格者、司法試験2次試験合格者
経営情報システム	技術士(情報工学部門)登録者(第1種)、情報工学部門に専攻する技術士となる資格を有する者 次の区分の情報処理技術者試験合格者(ITストラテジスト、システムアーキテクト、応用情報技術者、システムアナリスト、アプリケーションエンジニア、システム監査、プロジェクトマネージャ、ソフトウェア開発、第1種、情報処理システム監査、特種)

※科目免除および科目合格者は科目免除期間を要し、認められ、認められれば34ページをご覧ください。

試験・実務補習に関する問い合わせ

社団法人 中小企業診断協会

〒104-0061 東京都中央区銀座1-14-11 銀松ビル

TEL 03-3563-0851代

ホームページ <http://www.j-smeca.jp/>

※試験要項は、例年4月上旬～5月上旬に発表されます。

1次試験科目ガイド

1次試験科目の学習内容を紹介します。

試験科目と企業を取り巻く環境

中小企業診断士の試験科目は、一般的な企業の組織や業務内容と大変関わりが深い内容となります。

01 経済学・経済政策

経済状況や動向を知る

07 中小企業経営・政策

コンサルタントとして中小企業の経営特性や支援施策を知る

05 経営法務

企業経営に関する法律や法手続を学ぶ

06 経営情報システム

企業における情報システムの知識を学ぶ



03 企業経営理論

経営戦略や組織と人、マーケティングを知る



04 運営管理 (オペレーション・マネジメント)

工場での生産管理や店舗での販売管理を学ぶ

02 財務・会計

財務諸表から会社の状況分析やキャッシュにまつわる理論的な考えを学ぶ

Subject 01 経済学・経済政策

関連資格 ▶ 公認会計士 ▶ 証券アナリストなど

概要

～経済動向は企業行動を決定する基軸～

マクロ経済学とミクロ経済学を中心に学習します。マクロ経済学は一国を単位とした経済活動(国民所得・投資・消費・貯蓄などの集計値)、ミクロ経済学は一人企業や一人の経済活動(企業の生産活動や家計の消費活動など)を分析するものです。これら経済環境の変化を把握し、企業活動に対する影響を検討することは、ビジネスにおける意思決定に必要な知識といえます。

出題範囲

国民経済計算の基本的概念、主要経済指標の読み方、財政政策と金融政策、国際収支と為替相場、主要経済理論、市場メカニズム、市場と組織の経済学、消費者行動と需要曲線、企業行動と供給曲線、産業組織と競争促進 等

◆公認会計士、不動産鑑定士などは科目免除されます。
詳しくはCP25「他資格等保有による免除対象科目」をご確認ください。



Subject 02 財務・会計

2次試験と関連!

関連資格 ▶ 日商簿記 ▶ 税理士 ▶ CIA ▶ ファイナンシャルプランナーなど

概要

～企業の経営分析に必須の知識～

企業の財務状況等を把握し、その問題点を抽出する場合に、財務諸表等による経営分析は重要な手段となります。この財務諸表等から得られる数値(利益・資産・資金等の状況)を理解・分析するために必要な知識が財務・会計です。この科目は計算問題が多く、また2次試験の「事例Ⅳ(財務・会計)」に対応しており、応用力が求められることから、単なる暗記では対応が困難となります。

出題範囲

簿記の基礎、企業会計の基礎、原価計算、経営分析、利益と資金の管理、キャッシュフロー、資金調達と配当政策、投資決定、証券投資論、企業価値・デリバティブとリスク管理 等

◆公認会計士、税理士などは科目免除されます。
詳しくはCP25「他資格等保有による免除対象科目」をご確認ください。



Subject 03 企業経営理論

2次試験と関連!

関連資格 ▶ 社会保険労務士 ▶ CIAなど

概要

～企業経営・企業診断の基礎～

この科目は、事業領域の決定に関する「経営戦略論」、経営資源の配分に関する「組織論」、消費者のアプローチに関する「マーケティング論」を学習します。これらは、企業の経営に関する現状分析および問題解決、将来の事業計画策定に必要な不可欠の知識といえます。また、2次試験の「事例Ⅰ(組織・人事を含む)」と「事例Ⅱ(マーケティング・流通)」においても中心課題となる重要な科目と位置付けられています。

出題範囲

経営戦略論 経営計画・管理、企業戦略、成長戦略、経営資源戦略、競争戦略、技術経営、国際経営 等

組織論 経営組織の形態と構造、経営組織の運営、人的資源管理 等

マーケティング論 マーケティング計画と市場調査、消費者行動、製品計画、価格計画、流通チャネルと物流、プロモーション 等



Subject 04 運営管理 (オペレーション・マネジメント)

2次試験と関連!

関連資格 ▶ 販売士 ▶ 技術士 など

概要

～企業の現場に即した診断・助言に必須～

この科目は、製造工程や品質管理等を中心とした「生産管理」と、店舗施設や立地、販売・流通等を中心とした「店舗・販売管理」を学習します。これらは、企業の現場に即した問題点の把握や課題解決方法の提示を行なうために必要な知識となります。また、この科目は2次試験の「事例Ⅱ(マーケティング・流通)」と「事例Ⅲ(生産・技術)」に対応しています。

出題範囲

生産管理 生産管理概論、生産のプランニング、生産のオペレーション 等

店舗・販売管理 店舗・商業集積、商品仕入・販売(マーチャンダイジング)、商品販売・物流、流通情報システム 等



Subject 05 経営法務

関連資格 ▶ ビジネス実務法務検定 ▶ 弁護士 ▶ 司法書士 ▶ 知的財産管理技能検定 ▶ 行政書士 ▶ 金計士 など

概要

～ビジネス関連の法律知識を学習～

創業から株式上場あるいは知的財産権の活用など、企業経営は様々な法律の枠組みの中で行なわれています。その経営にまつわるビジネス関連の法律を中心に、諸制度、手続等に関する実務的な知識を学習するのが経営法務です。コンプライアンス(遵法)経営が求められる、企業のリスク管理の重要性が高まる中、中小企業診断士にとっても法務知識は不可欠といえます。

出題範囲

事業開始、会社設立及び制度等に関する知識、知的財産権に関する知識、取引関係に関する法務知識、企業活動に関する法律知識、資本市場へのアクセスと手続 等

◆弁護士等は科目免除されます。
詳しくはCP25「他資格等保有による免除対象科目」をご確認ください。



Subject 06 経営情報システム

関連資格 ▶ ITパスポート ▶ 技術士 ▶ ITコーディネータ など

概要

～社内の情報・ネットワークの管理に不可欠～

この科目の対象領域は、大きく二つに分かれています。一つがIT、いわゆる情報技術に関する領域、そしてもう一つが企業における情報システムに関する領域です。ハードウェア、ソフトウェア、ネットワークなど技術的な知識とシステム構築の基礎を学習します。

出題範囲

情報通信技術に関する基礎的知識 情報処理の基礎技術、データベースとファイル、通信ネットワーク、システム性能 等

経営情報管理 経営戦略と情報システム、情報システムの開発、情報システムの運用管理、情報システムの評価、外部情報システム資源の活用、情報システムと意思決定 等

◆技術士、一部の情報処理技術者試験合格者等は科目免除されます。
詳しくはCP25「他資格等保有による免除対象科目」をご確認ください。



Subject 07 中小企業経営・政策

関連資格 ▶ 行政書士 ▶ 公務員 など

概要

～中小企業の実態や国の施策を知る～

この科目は、企業に対して的確なコンサルティングを行うための知識を身に付けることを目的としています。「中小企業経営」は、中小企業の経営特性や経営課題、中小企業の実態を理解する科目であり「中小企業白書」からの出題が大半を占めます。「中小企業政策」は、国や地方自治体が講じている各種の施策について学習します。

出題範囲

中小企業経営 経済・産業における中小企業の役割、位置づけ、中小企業の経営特性や経営課題 等

中小企業政策 中小企業に関する法規と政策、中小企業政策の役割と実施 等



2次試験科目ガイド

2次筆記試験・口述試験の学習内容と攻略のポイントを紹介します。

Subject 01 筆記試験

2次試験の出題形式は、企業の「事例」が与件文(2~4ページ)として提示され、その事例に関する問題が4~5問程度出題されます。また、大半の設問で解答に15字~200字程度の字数制限があります。記述する文

章のボリュームはそれほど多くはありませんが、制限時間内に決められた条件設定で出題者の意図に沿った解答をまとめるという難しさがあるといえます。事例の内容は下記の通り、4つのテーマに分かれています。

テーマ	2010年度 出題内容	2011年度 出題内容
事例Ⅰ	組織(人事を含む)を中心とした経営戦略および管理に関する事例 業種: 食品原材料商社 設問: 市場分析、企業買収、成長計画	業種: 医療品メーカー 設問: 市場分析、技術開発、組織管理
事例Ⅱ	マーケティング・流通を中心とした経営戦略および管理に関する事例 業種: 食品スーパーマーケット 設問: ターゲットマーケティング、Eコマースマーケティング	業種: 服飾専門店 設問: 競争戦略、市場浸透戦略、関係性マーケティング
事例Ⅲ	生産・技術を中心とした経営戦略および管理に関する事例 業種: 自動車部品メーカー 設問: SWOT分析、コスト改善、海外戦略	業種: 金属製家具製造業 設問: SWOT分析、生産計画、CAD/CAM
事例Ⅳ	財務・会計を中心とした経営戦略および管理に関する事例 業種: 電子部品メーカー 設問: 経営分析、CVP分析、設備投資	業種: 水産加工品メーカー 設問: 経営分析、採算性分析、新規事業評価

事例テーマ別 傾向と攻略ポイント 2001年~2011年度の試験をもとにした出題傾向および攻略ポイントです。

事例Ⅰ 組織(人事を含む)

事例Ⅰは、組織・人事にとどまらず、戦略面などのかなり大きなテーマからも出題され、全体的に難問となる傾向があります。また、事例企業の組織図が提示される場合は、さらに内容の把握が難しいものになります。得点しやすい設問から解答し、「大きくずれ」しないことを心がけた解答をつくるべきでしょう。

事例Ⅲ 生産・技術

製造業(あるいはそれに関連する業種)からの出題が想定され、現状の問題点を指摘して改善案を策定する問題が中心となります。難易度は高いですが、設問間の関連性は低いため、対策としては、まず設問全体を確認し、点の取りやすいものから取り掛かるという方法が得策です。また、因果関係を正確に把握することが重要となります。

事例Ⅱ マーケティング・流通

小売業やサービス業等、誰もがイメージしやすい企業が出題される傾向にあり、比較的取り組みやすい事例といえます。他の事例に比べて与えられる情報量が多く、また、時系列的な構成になっています。そのため、まず事例全体のストーリーを把握した上で解答を作成する方法が効果的です。

事例Ⅳ 財務・会計

他の3つとは対策が大きく異なります。過去には、キャッシュフロー計算書の作成など、文章記述以外の問題が出題されており、こうした計算問題を確実に得点できるよう、トレーニングを積む必要があります。苦手な方も多い領域ですが、計算問題は配点も高く、確実に解けるようになれば得点源として期待できるようになります。1次試験科目の「財務・会計」の実力を高めておくことが合格への近道です。

Subject 02 口述試験 (2011年度実施例)

試験形式

口述試験は、面接官3人対受験者1人という形式で実施されました(右図)。試験時間は受験者1人につき、約10分間で行われます。



試験内容

口述試験では、筆記試験の事例問題で登場した4つの企業(A社・B社・C社・D社)について、筆記試験とは異なる角度で質問されています。出題される質問事項は、受験者によって異なります。基本的には、受験者1人につき、2つの企業が選ばれ(例:A社とD社)、1つの企業につき2題(つまり計4題)を出題するケースが多いようです(ただし、人によっては4つの企業について問われるケースや、1企業についての質問が3~4題に及ぶケースもあり、必ずしも統一した形ではありません)。なお、口述試験を受験するに当たっては、一切の資料・書籍等を見ることはできません。

概要と攻略ポイント

筆記試験で出題された事例の状況を的確に把握しておくこと、想定される質問に対する回答をある程度準備しておくことが必要となります。また、試験当日に落ち着いて受け答えできるよう、模擬面接を受けることも効果的です。

実務補習ガイド

中小企業診断士として登録を受けるには、2次試験合格後、3年以内に実務補習を15日以上受けるか、実務に15日以上従事することが必要です。ここでは、そのうちの実務補習(登録実務補習機関による実務補習)についてご案内します。

実施地区および実施期間

登録実務補習機関による実務補習は、1コース5日間もしくは15日間設定されています。例年、全国各地で2~3月、7~8~9月に実施され、土日祝中心に行われます。(平成23年7~9月実施例)

地区	コース	実施日
札幌	7月コース	7/1(金)・2(土)・9(土)・10(日)・11(月)
	9月コース	9/9(金)・10(土)・18(日)・19(月)・20(火)
仙台	7月コース	7/1(金)・2(土)・9(土)・10(日)・11(月)
	9月コース	9/9(金)・10(土)・18(日)・19(月)・20(火)
東京	7月コース	6/30(木)・7/1(金)・9(土)・10(日)・11(月)
	8月コース	8/19(金)・20(土)・27(土)・28(日)・29(月)
名古屋	7月コース	7/1(金)・2(土)・9(土)・10(日)・11(月)
	8月コース	8/19(金)・20(土)・27(土)・28(日)・29(月)
大阪	7月コース	7/1(金)・2(土)・9(土)・10(日)・11(月)
	8月コース	8/19(金)・20(土)・27(土)・28(日)・29(月)

地区	コース	実施日
広島	7月コース	7/1(金)・2(土)・9(土)・10(日)・11(月)
	9月コース	9/9(金)・10(土)・18(日)・19(月)・20(火)
福岡	7月コース	7/1(金)・2(土)・9(土)・10(日)・11(月)
	9月コース	9/9(金)・10(土)・18(日)・19(月)・20(火)

*各日程は必ず1日休入。中小企業診断協会ホームページにてご確認ください。

平日にあまり休めない社会人の方も安心!

実務補習は、社会人の方でも参加しやすいよう、土日祝中心の日程も多く用意されています。東京(9月コース)の場合▶

	日	月	火	水	木	金	土
9月	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24

平日実施は2日のみ

実施方法

受講者6名以内でグループを編成し、指導員の指導のもと、実際に企業等に対する経営診断・助言を行います。標準的な全体の概略は次のとおりです。

1企業当たりの日程	主な内容
実施4~5日前	指導員からメールにて、企業概要の提示や事前準備作業の指示が行われます。
第1日目	グループ別打ち合わせ、企業等の訪問・調査、資料分析など。
第2日目	企業等の訪問・調査、資料分析など。
第3日目	受講者・指導員間でメールにて、経営課題の抽出や診断報告書の作成準備を行います。
第4日目	全体調整、診断報告書の作成。
第5日目	企業等への報告会など。

最終日に「実務補習修了証書」が授与されます。

具体的な実施内容例

第1日目	第2日目	第3日目	第4日目	第5日目
[A.M.] 担当指導員およびチームメンバーの自己紹介、席次、資料打ち合わせ、役割分担決定。 [P.M.] データ収集、訪問先にて、店の経営人、従業員、診断先の経営者(近隣の同業店)との面談を実施。診断先の経営者から経営課題を抽出。その後、本社へ帰社し、ヒアリング実施、問題点整理。	[A.M.] データ整理、分析実施、本社から入手した資料(財務諸表や人事関係資料等)の共有。 [P.M.] データおよびヒアリングを基にSWOT分析を実施。診断の方向性を決定。次週までに、各自の担当分野の診断レポートを提出する。	[A.M.] 第1回研修チェック、各自の準備の進捗確認、方向性を確認。 [P.M.] レポートを基に、営業内、調査結果、整理。	[A.M.] 第2回研修チェック、変更点のみ読み合わせ。 [P.M.] 付帯資料の整理性チェック、レイアウト統一、診断書チェック、印刷準備実施。	[A.M.] 最終チェック、実務補習修了証書授与、診断報告書提出、プレゼンテーション練習。 [P.M.] 本社へ帰社し、報告会実施、修了会。

WINNER'S VOICE



高堂 浩一さん

診断業務の流れを把握!メンバーとの継続的な交流も!!!

実務補習は、チームで診断業務を進め、成果を上げるための基本的な流れを把握するうえで有益でした。企業のニーズを捉え、それを反映した提案書を作り上げることは大変ですが、診断報告書が完成し、経営者の方に喜んでいただけた時の充実感はひとしおです。メンバーとは実務補習後も情報交換しあったり、近況報告を兼ねた定期的な飲み会をしたりという仲間に変わりました。

WINNER'S VOICE



奥野 美代子さん

診断業務の多様なメンバーとの議論で知識や経験をシェアできる!

メンバーそれぞれ得意分野を把握し、ひとつのテーマで向き合っている議論しながら、お互いの知識を磨きあうことによって、より専門的な意見や知識を得ることができました。年齢や業種、職歴が異なり、経験やスキル、ノウハウも異なる仲間と集中的に濃い時間を共有することによって、知識や経験をシェアすることができ、大変刺激になりました。

ぜひご覧ください!

「実務補習レポート」をTACホームページ上で無料公開中!

TAC 診断士

検索

戦略的カリキュラム

○TACオリジナル「3回転方式」で合格を勝ち取る!

TACのカリキュラムは、「ストレート合格するための戦略的学習」を徹底的に分析して作られました。

TACが開発した「3回転方式」は、効果的に「覚える」「覚えなおす」「定着させる」作業が行え、受講生を合格まで導きます。

◆1・2次ストレート総合本科生 [全98回 + 2次スタートアップ演習 4回 + 公開模試 1・2次] 56ページ

◆1・2次ストレート本科生 [全91回 + 2次スタートアップ演習 4回 + 公開模試 1・2次] 58ページ

← 1・2次ストレート総合本科生 →
← 1・2次ストレート本科生 →



※当カリキュラムは本試験の傾向に合わせて、一部変更となる場合があります。

※「1・2次ストレート総合本科生」のカリキュラムの受講を希望して、教育訓練給付制度をご利用の方は、「1・2次ストレート本科生」と「アプローチ講義」を別々に申込みください。「1・2次ストレート本科生」が認定対象コースです。

○回転とは?

7科目を一週り学習することを「回転」と名付けました。回転学習(繰り返しの学習)が知識を定着させ、合格を実現します!



講師からのMESSAGE



進捗管理の心配は無用です!

津賀 弘光先生 (関西地区)

ストレートで合格することを念頭に書いたカリキュラムは、徹底したインプット講義を終えた後に、答練・演習などのアウトプットで試験対策を完成させていきます。長丁場の学習においては、進捗管理が合否を分けるといっても過言ではありません。TACのカリキュラムに込められた進捗管理は心配ご無用です。



TACのカリキュラムが戦略的である理由

1 ストレート合格を実現!

TACの「1・2次ストレート総合本科生」「1・2次ストレート本科生」には、1次・2次試験にストレート合格するために必要な「講義」「教材」「フォロー制度」「ノウハウ」などが全て揃っています。他に手を広げることなく、TACのカリキュラムのみで学習いただけます。

2 早期に必要な知識を定着!

4月までに基本編の講義・答練を終了し、合格に必要な知識を習得します。早期に全体を把握し、2回転目がスタートすることで、「覚えなおす」「定着させる」期間を十分に確保できます。

3 充実の1次直前期!

5月上旬から、「1次完成答練」で2回転目の学習が始まります。1次直前期の答練で実践力が飛躍的にアップします。また、7月から「1次最終講義」で3回転目の学習が行え、万全の状態の本試験に臨めます。

4 徹底した2次試験対策!

1次試験対策と並行して「2次スタートアップ講義・演習」を実施。早期から2次試験対策に取り組みます。1次試験後の2次直前期のカリキュラムも充実しており、豊富なアウトプットで2次攻略スキルを習得します。

5 全国最大級の公開模試!

TACの公開模試は全国最大級規模。そのレベル・規模・フォローなどの全てにおいて自信を持っておため出来ます。多くの受験者に支持され、2011年度のTAC公開模試受験者は、1次が4,567人、2次は2,743人を数えました。

2次口述試験対策も万全!

「口述対策セミナー」と「口述模擬面接」実施予定

TACでは、毎年2次筆記試験の問題を分析し、2次口述試験の出題予想を行います。口述対策セミナーや模擬面接も実施しますので、万全の体制で口述試験に臨むことができます。

※模擬面接は別途予約が必要です。

